

プログラム

1. ピアノデュオ 寺町奏音 桑野友里

プロコフィエフ：プレトニョフ編曲
組曲「シンデレラ」より 7. ギャロップ

2. 声楽アンサンブル

岡本 なつみ 猪谷 菜由 西村 風香 大田 真喜乃 小川 佳澄 樋口 草太郎 ピアノ 上野山 弥新

アルカデルト
アヴェ・マリア

モーツァルト
アヴェ・ヴェルム・コルプス

チルコット
A little jazz mass より Kyrie、Gloria

3. ヴァイオリンデュオ 辻井音々 近藤 菜々海

ベリオ
2つのヴァイオリンのための協奏曲 Op.57 No.3
第1楽章 モデラート・第3楽章 アレグレット

4. ピアノ 永井 晶人

ベートーヴェン
ピアノソナタ第26番 変ホ長調「告別」 Op.81a
第2楽章・第3楽章

◆ 休憩 ◆

5. 弦楽アンサンブル

都呂 須七歩 石井 里和 前田 柚子 近藤 菜々海 ピアノ 森本 恵都子

ヴィヴァルディ
4つのヴァイオリンのための協奏曲 口短調
Op.3 No.10 RV.580

6. ピアノ 元木 実優

ラヴェル
夜のガスパールより「スカルボ」

7. クラリネット 北條 亜一人 伴奏 元木 実優

モーツァルト
クラリネット協奏曲 イ長調 K.622 第1楽章

プログラムノート

プロコフィエフ：プレトニョフ編曲 / 組曲「シンデレラ」より 7. ギャロップ

「シンデレラ」は、ロシアの作曲家であるプロコフィエフが作曲したバレエ音楽です。プロコフィエフ自身によって、管弦楽組曲やピアノ独奏用組曲などに編曲されています。ギャロップとは馬が疾走する様子を表すダンスの事で、1820年代のウィーンで大流行しました。沢山の手をつないだ二人組が大勢で巨大な輪になり、猛烈な勢いで回るといったものでした。今回演奏させて頂くのは、ロシアのピアニストであるミハイル・プレトニョフが2台ピアノ用に編曲した作品で、マルタ・アルゲリッチと共にスイスで初演されました。

アルカデルト / アヴェ・マリア

この曲は、ジャック・アルカデルト(1504 or 1505-1568)が作曲したシャンソン[私たちは愛を徳をなすと見ゆ]を、p.l. ディーチュがホモフォニックな形に編曲し、歌詞を[アヴェ・マリア]に付け替えて1845年に出版されました。アルカデルトのアヴェ・マリアは教会ではよく演奏される曲で、賛美歌のもつ穏やかで慈しみあふれた旋律に溢れています。リストもこの讃美歌をピアノ独奏曲として編曲しています。

モーツァルト / アヴェ・ヴェルム・コルプス

モーツァルトが、死に先立つ半年前1791年6月17日に、当時バーデンで療養中の妻を何かと気遣ってくれた友人指揮者アントン・シュトルのために書かれた曲。全曲わずか46小節の小品ながら、規則的な四分音符の歩み、中音域のみの穏やかな音調、そして転調と半音階の細やかな陰影などに、伝統的制約や注文主の好みなどに煩わされず、のびのびと心の深淵を吐露し、質朴のなかに敬神の念を高めたモーツァルト最晩年の様式特徴がみごとに映し出されている。

チルコット / A little jazz mass より Kyrie、Gloria

ボブ・チルコットはイギリスに生まれ、現在も合唱曲作曲家、指揮者、歌手として活躍中。この曲は伴奏にピアノトリオを用いたジャズテイストなラテン語による小ミサ曲。ミサ曲はカトリック教会のミサに伴う声楽曲を指す。リズム感のあるKyrie、スウィングするGloria、ゆったりとしたSanctus、軽快なBenedictus、そして甘美な特有の雰囲気を感じるAnus-Deiの5曲から構成されている。前半は独特なリズム感に加え、ハーモニーの響きも堪能できる曲となっている。

ベリオ / 2つのヴァイオリンのための協奏曲 Op.57 No.3 第1楽章 モデラート 第3楽章 アレグレット

作曲者のシャルル＝オーギュスト・ド・ベリオはベルギーのヴァイオリニスト、作曲家。この曲はエレガントでロマンチックなメロディーを2つのヴァイオリンが交互に奏でます。一楽章のmoderatoは、テンポ、メロディー、伴奏形態が様々に変化し、展開されていく。三楽章のallegrettoは、落ち着いた一楽章とは対照的な、8分の6拍子の軽快で楽しい、リズムカルなメロディー。幾度と繰り返されるメロディーの受け渡し、様々な旋律、終盤にかけての盛り上がりをお楽しみください。

ベートーヴェン / ピアノソナタ第26番 変ホ長調「告別」 Op.81a 第2楽章・第3楽章

このソナタの愛称「告別」は、作者自身が自筆譜に書き込んだ「告別。敬愛する皇帝陛下の大公ルドルフの出発に際して。」という献辞に由来していて、そのため各楽章に「告別」「不在」「再会」といった表題が記されている。2楽章の主和音と逸音の関係から調性感を曖昧にさせることや、3楽章の属七和音からの決然とした開始からは、彼の心の揺れや移り変わりが読み取れる。彼の内に秘められた悲しみから再会の喜び。今回は、彼のこの心情を描く物語の一部、「不在」「再会」をお楽しみ下さい。

ヴィヴァルディ / 4つのヴァイオリンのための協奏曲 口短調 Op.3 No.10 RV.580

この曲は、全12曲からなる協奏曲集「調和の靈感」作品3の第10曲です。第1楽章、第3楽章は4台のヴァイオリンがソロパートを交代していく形式で第2楽章は冒頭Largoの後に続くLarghettoで、4台のヴァイオリンソロが異なる奏法で和音を作り出すことが特徴的です。また、バッハがこれを「4つのチェンバロのための協奏曲イ短調BWV1065」に編曲したことも知られるバロックの名曲の一つです。

ラヴェル / 夜のガスパールより「スカルボ」

「夜のガスパール」は、詩人ベルトランによる64篇から成る散文詩集のタイトルである。ラヴェルはそこからとりわけ恐ろしくまた美しい3つを選んでピアノ曲とした。「オンディーヌ」「絞首台」「スカルボ」である。「スカルボ」とは地の底に棲む不気味な悪霊であり、部屋の中を目まぐるしくかけめぐり、部屋に飛び込んで悪戯ばかりする。急速なパッセージと強弱の激しさ、そして不気味な旋律が、自由に飛び回る小悪魔を描いている。消えては現れ、最後は炎が青白く燃え消えるように突然に姿を消す。

モーツァルト / クラリネット協奏曲 イ長調 K.622 第1楽章

モーツァルトが作曲した最後の協奏曲。1791年に当時のクラリネットの名手アントン・シュタドラーのために作曲された。古典派の典型的な協奏曲スタイルで構成されており、第一楽章は1787年に同じくシュタドラーのために作曲されたG管バセットホルンのための協奏曲(K.621b)に手直しを加えたものである。それをA管クラリネット用に移調し、二、三楽章を新たに追加完成された。楽器の特性を十分に生かし、その魅力を存分に引き出したこの作品は、クラリネットを芸術音楽の範疇で活躍させるきっかけを作ったとも言えるだろう。

～ 京都堀川音楽高校より お知らせ ～

- ◆ 第8回 卒業演奏会 (第69期卒業演奏会) 3月22日(木) 17:30 開演(17:00 開場) 入場無料(申込不要) 京都コンサートホール 大ホール 京都堀川音楽高校の1年を締めくくる 恒例の卒業演奏会です。是非、皆様お誘い合わせの上、ご来聴いただければ幸いです。